⑵　（控除）自己収入等				
大学院教育収益	△ 158,853			
受託研究等収益	△ 55,653			
受託事業等収益	△ 28,883			
寄附金収益	△ 33,419			
入場料収入	△ 60,817			
資産見返寄附金戻入	△ 7,278			
財務収益	△ 967			
雑益	△ 89,467			
臨時利益	△ 1,580	△ 436,921		
業務費用合計			11,717,524	
Ⅱ　損益外減価償却相当額			1,138,797	
Ⅲ　損益外減損損失相当額			—	
Ⅳ　損益外利息費用相当額			5,157	
Ⅴ　損益外除売却差額相当額			6,414	
Ⅵ　引当外賞与増加見積額			△ 7,987	
Ⅶ　引当外退職給付増加見積額			△ 164,300	
Ⅷ　機会費用				
国又は地方公共団体の無償または減額された使用料による貸借取引の機会費用	2,473			
政府出資の機会費用	339,430		341,904	
Ⅸ　（控除）国庫納付額			—	
Ⅹ　国立大学法人等業務実施コスト			13,037,510	

注　記　事　項

Ⅰ　重要な会計方針

1．運営費交付金収益の計上基準

期間進行基準を採用しています。

なお、退職一時金、ＰＦＩ事業維持管理費については費用進行基準を、また、研究経費及び共同利用・共同研究経費、教育研究支援経費、一般管理費の一部については業務達成基準を採用しています。

2．減価償却の会計処理方法

⑴　有形固定資産

定額法を採用しています。

耐用年数については法人税法上の耐用年数を採用していますが、受託研究収入等により購入した償却資産については当該受託研究等期間を耐用年数としています。

主な資産の耐用年数は以下のとおりです。

建物	９～50年
構築物	10～50年
工具器具備品	５～15年
車両運搬具	５年

また、特定の償却資産（国立大学法人会計基準第84）及び資産除去債務に対応する特定の除去費用等（国立大学法人会計基準第89）に係る減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金から控除して表示しています。

⑵　無形固定資産

定額法を採用しています。

なお、法人内利用のソフトウェアについては、法人内における利用可能期間（５年）に基づいています。

3．賞与引当金及び見積額の計上基準

賞与引当金は、翌期以降の運営費交付金により財源措置がなされない教職員への賞与の支払いに備えるため、当該教職員に対する賞与支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しています。

また、翌期以降の運営費交付金により財源措置がなされる賞与については、賞与引当金は計上していません。

なお、国立大学法人等業務実施コスト計算書における引当外賞与増加見積額は、当事業年度末の引当外賞与見積額から前事業年度末の同見積額を控除した額を計上しています。

4．退職給付に係る引当金及び見積額の計上基準

退職一時金のうち、運営費交付金により財源措置がなされない教職員に対するものについては、当該職員の退職給付に備えるため、退職給付引当金を計上しています。

また、退職一時金のうち、運営費交付金により財源措置がなされる教職員に対するものについては、退職給付引当金は計上していません。

なお、国立大学法人等業務実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、自己都合要支給額に基づき計算された退職一時金に係る退職給付引当金の当期増加額を計上しています。

5．有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的債券

償却原価法（定額法）を採用しております。

6．たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準　低価法

評価方法　移動平均法

7．国立大学法人等業務実施コスト計算書における機会費用の計上方法

⑴　国等の財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用の計算方法は近隣の地代や賃借料を参考に計算しています。

⑵　政府出資等の機会費用の計算に使用した利率

新発10年国債の平成25年３月末利回りを参考に0.560％で計算しています。

8．リース取引の会計処理

リース料総額が300万円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

9．消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税込方式によっています。

10．財務諸表及び附属明細書の端数処理

財務諸表及び附属明細書は、千円未満切捨により作成しています。

Ⅱ　貸借対照表

1．運営費交付金から充当されるべき賞与引当金の見積額は、267,364千円です。

2．運営費交付金から充当されるべき退職給付の見積額は、3,905,823千円です。